

質問者	通告 1 1 番 1 番 大石 舞 議員	通告時間 4 0 分
		答弁者 町長・教育長
質問事項	コロナ禍での少人数学級の実現と、子ども・子育て世帯への支援について	
要 旨	<p>ワクチン接種が進む中、全国的に変異ウイルスの拡大が懸念される。厚労省によるとクラスターの発生場所は多様化しており、特に学校や教育施設での発生が増加している。</p> <p>一方、コロナ禍において前向きな変化が生まれている。教育分野においては、インターネット環境の整備や少人数学級の前進が代表例である。</p> <p>少人数学級については40年ぶりに基準の見直しが行われ、国は5年かけて小学校を35人以下学級にすると決めた。これは教育現場や保護者の長年の要求であり、毎年さまざまな形で要望が出されていたものである。</p> <p>コロナ禍において心身のバランスを崩す生徒や、学習についていけない生徒の存在が浮き彫りになった。今後は子どもが抱える多様な困難を支援し、新しい社会に対応する力を育むきめ細かな教育が、いっそう求められると考える。</p> <p>近隣では少人数学級を前倒しで行ったり、子育て世代や子どもへの支援に取り組んだりする自治体が増えている。</p> <p>コロナ禍を乗り越える支援と、より良い教育環境整備を求める立場から、以下について問う。</p> <p>(1) 町として少人数学級に取り組む考えは。また、コロナ禍における教育現場や子どもの負担軽減のための環境整備は。</p> <p>(2) 子ども・子育て世帯を支援するため、学校の給食費補助などを行う考えは。</p>	